



プレスリリース

一般社団法人日本原子力学会

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる 学術・技術 専門家集団として社会への情報提供を行うため、随時プレスリリースを行っています。
今回は、原子力規制委員会による日本原子力発電株式会社敦賀発電所 2号炉の審査結果に 関連してリスク情報を活用した原子力施設の安全性の向上についてです。

リスク情報を活用した原子力施設の安全性の向上について(声明)

～日本原子力発電株式会社敦賀発電所2号炉の審査結果に関連して～

日本原子力学会 理事会

2024年11月13日の第42回原子力規制委員会において、原子力規制委員会は、日本原子力発電株式会社敦賀発電所 2号炉の新規制基準適合性について、敷地内破碎帯の断層としての活動性及び連続性に係るデータに鑑み、設置許可基準規則に適合しているとは認められないとの判断を示しました。この判断について、本会は、現行の基準規則と現在の知見に基づいて原子力規制委員会が判断したものと理解しています。

本会では、原子力に係る安全性の継続的な向上にはリスク情報の活用が重要であると考えています。今般の審査結果に関連して、原子力発電所の地盤の変位に対する安全性について、リスク情報を活用して議論するためには、例えば推定される変位量に応じた定量的なリスクを評価して事故に至るシナリオを分析し、安全性確保に必要な方策のあり方を議論するなどのプロセスを踏んだ評価手法を確立していくことが今後の基本的な方向性であると考えます。そのためには断層変位に関するデータを幅広く収集し、さらに研究を進めていくことが必要だと考えています。

この考えに基づき、本会におけるこれまでの取り組みや今後本会が果たすべき役割等について取りまとめましたのでお知らせいたします。

とりまとめの内容につきましてはこちらをご覧ください。

https://www.aesj.net/risk_statement

本会は、原子力の安全性向上と原子力科学技術の幅広い活用に関して、引き続き専門家として独立の立場から学術、技術の発展に取組み、成果を提供することで社会に貢献していく所存です。

以上